



前橋市生涯学習  
奨励員連絡協議会

責任者 笠原 弘

事務局  
前橋市教育委員会  
生涯学習課内

〒371-0023  
前橋市本町2-12-1  
前橋プラザ元氣21  
3階

☎(027)210-2198

# 戦後八十年と「前橋空襲と復興資料館」

手島 仁

昭和二十年八月五日から六日にかけて、アメリカ軍は前橋市を空爆しました。終戦の十日前のことでした。今年には終戦、前橋空襲から八十年の節目の年でした。

前橋空襲により市街地の八割が焼失し、六百人近い人命が失われました。幕末開港以来、生糸貿易の富で築き上げてきた前橋が一夜にして失われた大惨事でした。

前橋市では戦後七十年を迎えるころから「前橋空襲の記憶を風化させてはいけない」という危機意識を官民で共有し、市民の熱心な要望と当時の山本龍市長の英断で、コロナ禍を乗り越え、二つの検討会を設け約十年かけて、市民文化会館内に「前橋空襲と復興資料館」を今年の四月二十八日に開設することが出来ました。

## 歴史文化遺産活用委員会の設置

私は二つの検討会の座長・委員長を務めました。この活動の前提になったのが、平成二十五年八月から四年間

にわたって設けられた歴史文化遺産活用委員会の活動でした。同委員会には各地区の生涯学習奨励員の皆様に参加して頂きました。資料館が出来たのも奨励員各位のお陰です。この場をお借りして感謝の意を表します。

## 戦争をしないを継承

「先の大戦」は前橋ゆかりの鈴木貫太郎首相が、昭和天皇の聖断を仰ぎ終結しました。詔書には「為萬世開太平（萬世の為、太平を開く）」と書かれています。これは「戦争をしない」という意味です。戦後八十年が過ぎ、「先の大戦」も同時代史から歴史になって行きます。今を生きる私たちは、次世代に「戦争をしない」を継承しなければなりません。

前奨連の会長を務めた島田兼之さんは、昭和十六年に応召された戦争体験者でした。生前、「亡くなった人たちに思いを馳せ、平和を続けるにはどうすればいいか常に考えないといけない」と言っていました。生涯学習奨励

員の皆様におかれましては、各地区に残る証言や資料など発掘して資料館にご提供頂きたくお願い申し上げます。

## 地域を知り他地域も知る

八月三十日（土）に中央公民館三階ホール・ホワイエにおいて生涯学習フェスティバルが開催されました。

このフェスティバルは、地域づくり活動の紹介や、さまざまなイベントを通して生涯学習の機会を提供するお祭りです。見て触れて楽しい学習情報が盛りだくさんで、こどもから大人まで誰もが気軽に生涯学習を知り、参加できる機会となっています。

## 生涯学習フェスティバル2025

展示・体験コーナーでは、わが町広報紙まつり・わが町紹介や昔あそび、リサイクル工作ひろば、読み聞かせ、秋元公甲胃試着体験、狐の嫁入りメイク体験等々盛りだくさんなプログラムが用意され、その中の広報紙まつりとわが町紹介は、展示期間を一週間設け多くの人に見て頂く機会を増やしました。生涯学習奨励員の仕事のひとつとして広報紙づくりに取り組んでいる町が増えていくようです。写真や紙面をカラーにするなど工夫し、町づくりに一役買っています。

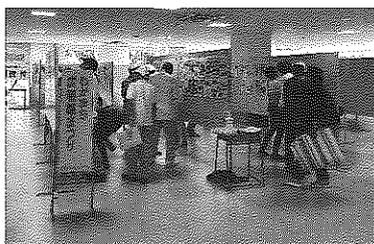
資料館を「平和を続けるのはどうすればいいか考える場」に出来ればと思います。

さらにわが町紹介については、沢山の写真でそれぞれの町の活動の様子や町の特徴などが展示され、他地域の展示を参考にして来年を考えたいという奨励員もみられました。

## 集客をねらう試み

生涯学習奨励員制度ができて間もなく始まったこのフェスティバルもたくさんの方の来場者をいかに迎えるか苦慮しています。コロナ禍で実施を見合わせた時期もありましたが、今年はそのような状況から解放され、地域から出演して頂くグループを募りステージ発表を試みました。午前には賑わいを見せましたが、お昼休憩を挟んで午後は、観客が疎らになってしまふという結果になってしまいました。

総体的なアンケートからは高評価が多かったようですが、今年の反省を踏まえて次年度はその目的達成にむけ取り組んで行くことが理事会で話されました。



広報紙まつりの様子

地区だより ⑤2

カルタで地域づくり

下川淵地区生涯学習奨励員

羽鳥 悟

「地域カルタ」の一つとして、下川淵地区でも、地区の歴史・文化・伝統を詠み込んだ「下川淵カルタ」があります。本地区では「作つたらそれで終わり、ということにしない」という意識が高く、毎年「下川淵カルタ」を通じた地域づくりの取り組みが行われています。

一 カルタ・クイズ

地域行事の中で、カルタ・クイズのコーナーを設けて、行事参加者を対象にクイズを出します。クイズに参加するだけで、地域の歴史と文化が学べます。小学校社会科の地域学習で、子どもたちは「下川淵カルタ」に触れます。クイズでは、カルタの内容に関連した周辺情報を出題します。学校での学びをチョッピリ



深めることができません。当日はクイズだけでなく、カルタその

ものと、カルタを解説したブックレット販売もしています。

二 カルタ・ウォーク

カルタの読み札に詠み込まれた場所（カルタ・スポット）には、カルタの立て札があります。地区内のカルタ・スポットは四十カ所です。住民でも

全で行ったことがない人は多いと思います。そこで、毎年十二月には、「下川淵カルタ」に詠み込まれた場所に、実際に行ってみようという「カルタ・ウォーク」を開催しています。初めての方や常連の方を交え、のんびりと歩きながら地区内の「名所」を巡ります。実際に現地に行くと、地域理解が一層深まります。

三 カルタ大会

毎年一月に公民館でカルタ大会を行います。コロナ禍で中断した時期もありましたが、密にならないようにホールでジャンボ・カルタをとり合う等、工夫しながら大会を続けています。

「下川淵カルタ」の普及活動には、カルタを通して、地域のことを知ってほしい、知るほどに郷土愛を高めてほしい、との願いが込められています。奨励員が力を合わせて取り組みを続けます。



生涯学習奨励員。いま、わが町で

「自治会発足から六十年

納涼祭や文化祭」

東地区・光が丘町奨励員

水口 功雄

わが光が丘町は、昭和四十一年一月四日に、自治会は六月に発足しました。また、令和八年一月で光が丘発足から六十年が経過しました。令和七年は八月二日（土）に納涼祭を行い、また六十周年を記念し十二月に「光が丘文化祭」を開催する予定です。

生涯学習奨励員としては、推進委員でさまざまな企画委員会を設置し、メンバーは自治会役員、長寿会、いきいきサロンサポーター、各組々長、公民館生涯学習グループの代表等により計二十四名で成り立っております。

奨励員としては、町の広報「なかま」を、年に三〜四回発行しております。まず七名の編集委員で集まり、発行の記事等を選定し、記事担当、写真があればそれも担当をお願いします。記事の依頼、

そして発行日等を検討し、仮印刷をしてもらったものを持ち寄り校正委員会を開き、修正追加を決定し本印刷に廻します。なお記事等の量により回数は年度により多少前後します。

「ふれあいいきいきサロン」は毎月第二・第四月曜日に開催しております。これは平成二十一年より始まりました。毎回三十名〜四十名の町内のみなさんが集まり、フレイル体操や歌を合唱するなどして楽しいひと時を過ごしております。長寿会とは三世代輪投げ大会を毎年開催し、大勢の参加で楽しんでおります。

また新年祝賀会は自治会主催、長寿会主催の二回行なっております。本年度の東地区運動会は雨の為中止となりました。今年度は全競技に参加予定でしたので選手一同、応援者も大変残念の一言です。令和五年度より「町社協光が丘デイ」として毎月一回の脳トレからバンド公演等多くのみなさんの参加をいただき大いに楽しんでいただいております。

### 「生涯学習の 取り組みについて」

富士見地区・富士見町梶谷奨励員

小林 勇

富士見地区の生涯学習活動の取り組みを紹介します。富士見町の生涯学習は富士見村が前橋市に合併した、平成二十一年が始まりになります。その時は生涯学習奨励員は文化部長と兼務でした。文化部の活動が中心で、地元のお祭りや文化祭の開催やどんど焼きの復活等がありました。

前奨連の研修会や講演会に参加して行く中で富士見の良い所、富士見の住民も忘れて行く所を掘り起こして紹介して行く活動になって来ました。

そして、前奨連が行っているフェ

スティバルに横室歌舞伎の衣装を展示、写真パネルの展示、富士見から誕生した偉人達『船津伝次平、小淵しち』『羽鳥重郎、羽鳥又男』、現代偉人の『柳井久雄先生、富士見音頭を作詞した羽鳥誠哉氏、書道家の荒井徳峰先生、船津桂月さん』、昨年は『大沼用水を造った四人の偉人で船津伝次平、木村興作、樺沢政吉、須田惇一』等を紹介して来ました。

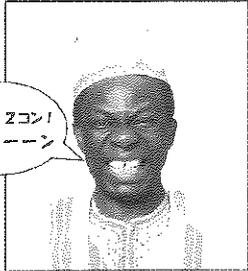
発表の為の調査をする度に、それぞれにドラマがあつて感動させられ、良い勉強になりました。

これまでは富士見の良い所を外に紹介する活動でした。富士見区民の皆さんに還元する活動として、外部講師による講演会を実施しました。テレビ等で『イツコン・ニコサン・サンコン』で有名なオスマン・サンコンさんによる講演会には、約二〇〇名以上の参加が有りました。

講演のテーマは『超自然人、サンコンの「視力六・〇」が見たニッポンと大地の教え』で、ためになる講演会でした。

これからも富士見地区の生涯学習活動は富士見の良い所を発掘・調査をして内外に伝えていきたいと思います。

## 生涯学習講演会



「コン!コン!  
3コーーーン」

講師:オスマン・サンコン(ギニア大使館顧問)

テーマ:「超自然人」サンコンの「視力6.0」が見たニッポンと大地の教え

会場:富士見公民館 ホール(2F) 入場 無料  
日時:令和7年2月23日(日) (整理券必要)  
入場:13:30~ 開演:14:00~  
主催:富士見地区生涯学習奨励員連絡協議会  
主協:前奨連、富士見町自治会連合会  
文化協会富士見支部

### 「まちだより」

永明地区・下長磯町奨励員

森村 茂美

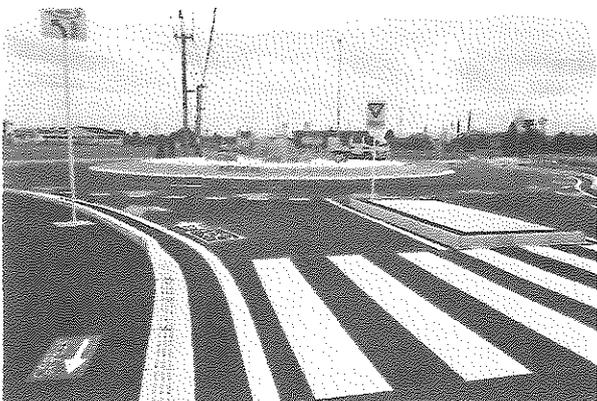
下長磯町の市道交差点で前橋市が今年二月から工事を進めていた信号機のない交差点「ラウンドアバウト(環状交差点)」が完成。自治会主催の完成式が九月二十五日に行われ、供用が開始されました。

ラウンドアバウト完成前まではY字路とT字路が近接的に交わる変則交差点。近くの木瀬中学校生徒が通う通路でもあり、交通事故などの発生を危惧していた地元

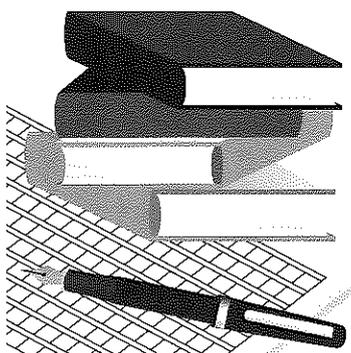
自治会が市に改良を求めています。市は自治会からの要請を受け検討した結果、前橋で初めてとなるラウンドアバウトの採用を決め、二月から工事を進めています。

完成した交差点は直径約三十分メートルの円形。四カ所に接続道があり、車両などは徐行しながら左折で円内に入、時計回りで走ります。直径十五メートルの中央島には、同町の稲荷神社で毎年四月第三日曜日に上演される伝統芸能の操翁式三番叟の三体の人形をデフォルメしたモニュメントが設置されました。

完成式典前には、前橋東警察署員が町民を対象にした通行方法の説明会を開催。町民たちは新たな交差点での無事故や交通安全への思いを新たにしています。



前橋で初めてのラウンドアバウト



# 「戦後八十年に思う」

## 戦争知らない人が増えることの危機感

前下川淵地区生涯学習奨励員 角田 光利

孫引きの話から始めて恐縮ですが、二十代の頃に読んだ本の中に引用されていた、司馬遼太郎の言葉が忘れられません。ご存知の方も多いでしょうが、司馬は昭和十八年に学徒出陣で戦車連帯に入隊し、小隊長として終戦を迎えました。——日本はなぜ、こんな馬鹿な戦争を初めたのか。疑問を持った司馬は、日本の歴史に向き合う中で、歴史作家としての歩みを初めます。

アジア・太平洋戦争（第二次世界大戦）は、昭和六年に勃発した満州事変がその発端と言われています。事変を主導した陸軍の中堅将校たちが軍の実権を握ったのは、世代交代によるものだったと司馬は見ています。彼らの上官たちは日清・日露戦争に従軍し、戦争の悲惨な実態を身をもって体験した

世代でしたが、高齢となり軍を去りません。軽々に戦争をしてはならない、と肝に銘じ、重しとなって軍を統率していた世代の者たちが去り、抑えが効かなくなってしまう。戦争を知らない者が主流となって、軍の暴走が始まったのだと。

これを読んだ時、そういうことだったのか、と釈然としたのと同時に、暗然たる気持ちになったことも覚えています。それは、私たちもいざれ同じような状況を迎える日が来るのだ、という抗えない予言を突きつけられた気がしたからです。今年には終戦後八十年の節目にあたる年でした。実際に外地や戦地に赴き、被害ばかりでなく、加害をも含めた戦争の実態を経験した人は、一人もいなくなってしまう現実が、すぐそこに来ている。思えば日本が再び戦争を始めることはないだろう、という安心感が少年期から今日までずっと私にあったのは、戦争の実態を知る人たちが、重しとなって平和を守ってくれていたからでした。

現在戦争の記憶を継承し、平和を守ろうという活動が各地で進められています。前橋市でも今年、『前橋空襲と復興資料館』が開館しました。こうした様々な活動や施設を通して、これからは、自分たちの力で平和を守り築き上げていかねばならないのだと、思いを新たにしています。

### 日時・会場等

ブロック名 会場館	地区名 コーディネーター					実施日時
	一中	旧二中	三中	旧四中	五中	
第1ブロック 中央公民館	一中地区理事: 持田 保					令和7年12月7日(日) 午後1時30分~
第2ブロック 永明公民館	上川淵	下川淵	永明			令和7年12月8日(月) 午後1時30分~
第3ブロック 総社公民館	東	元総社	総社	清里		令和7年12月4日(木) 午後1時30分~
第4ブロック 芳賀公民館	芳賀	南橋	富士見			令和7年12月16日(火) 午後2時00分~
第5ブロック 宮城公民館	桂萱	城南	大胡	宮城	粕川	令和7年12月17日(水) 午後2時00分~

## 令和七年度 実践研究会

地域づくりや生涯学習の重要性を再認識し今後の活動に活かすを実施しました。

### あゆみ (8月~12月)

#### ▼ 主要事項

- 8・19 ■ 第3回理事会・代表者会議 ▼ フェスティバルの開催計画・内容確認
- 8・29 ■ 生涯学習フェスティバル 2025 会場準備作業
- 8・30 ■ 生涯学習フェスティバル  
前奨連関係 ○ わが町広報紙まつり ○ テーマ展示 ○ その他
- 9・1 ■ 会報第103号発行
- 9・30 ■ 第4回理事会・第3回代表者会議
- 10・30 ■ 総務委員会
- ▼ フェスティバルの総括 ▼ 生涯学習実践研究会開催計画 ▼ 前奨連セミナー開催計画 他

